

中国



1 農・畜産業の概況

中国は、日本の25.7倍に当たる9.7億ヘクタールの国土を有しており、耕地面積は、1億6342万ヘクタール(2012年)と国土の16.8%を占め、この割合は日本よりも高い。

中国の国内総生産(GDP)に占める農林水産業の割合は、全体の10.1%(2012年)と必ずしも高くないものの、就業人口では全体の33.6%(2012年)を占め、依然として中国の重要な産業となっている(表1)。

中国の農林水産業総生産額は、近年、経済成長および農産物価格の上昇により増加傾向にあり、2012年は、前年比10.0%増の8兆9453億元(161兆154億円:1元=18円)となった(表2)。

農林水産業の部門別生産額割合の推移を見ると、1990年には農林水産総生産額の6割以上を占めた農業は減少傾向にあり、2005年以降は5割前後で推移している(図1)。一方、国民所得向上による食肉消費の拡大を受けて(表3.4)、1990年には2割強であった畜産業のシェアは、近年、3割前後で推移している。2012年の畜産業の生産額は、2兆7189億4000万元(48兆9409億2000万円)(同5.5%増)となった(表2)。

表1 農林水産業の地位

区分/年	2008	2009	2010	2011	2012	前年比(増減率)
GDP	314,045.4	340,902.8	401,512.8	473,104.0	518,942.1	9.7%
うち農林水産業	33,702.0	35,226.0	40,533.6	47,486.2	52,373.6	10.3%
GDP比	10.7	10.3	10.1	10.0	10.1	0.1ポイント
就業人口	75,564	75,828	76,105	76,420	76,704	0.4%
うち農林水産業従事者数	29,923	28,890	27,931	26,594	25,773	-3.1%
就業人口比	39.6	38.1	36.7	34.8	33.6	▲1.2ポイント

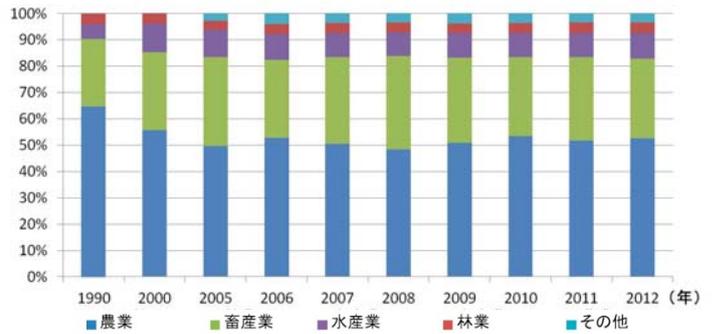
資料:中国国家统计局「中国統計年鑑」

表2 農林水産業総生産額の推移

区分/年	2008	2009	2010	2011	2012	前年比(増減率)
農林水産業総生産額	58,002.2	60,361.0	69,319.8	81,303.9	89,453.0	10.0%
農業(耕種農業)	28,044.2	30,777.5	36,941.1	41,988.6	46,940.5	11.8%
林業	2,152.9	2,193.0	2,595.5	3,120.7	3,447.1	10.5%
畜産業	20,583.6	19,468.4	20,825.7	25,770.7	27,189.4	5.5%
水産業	5,203.4	5,626.4	6,422.4	7,568.0	8,706.0	15.0%
その他	2,018.1	2,295.7	2,535.1	2,855.9	3,170.0	11.0%

資料:中国国家统计局「中国統計年鑑」

図1 部門別生産額割合の推移



資料:中国国家统计局「中国統計年鑑」

注:第二次全国農業センサス(2006年末時点)の結果に基づき、2006年のデータが大幅修正されたことから、2005年以前と2006年以後の数値は連続しない。

表3 1人当たり平均年間所得

区分/年	2008	2009	2010	2011	2012	前年比(増減率)
都市部	15,780.8	17,174.7	19,109.4	21,809.8	24,564.7 (442,164円)	12.6%
農村部	4760.6	5153.2	5919.0	6,977.3	7,916.6 (142,498円)	13.5%

資料:中国国家统计局「中国統計年鑑」

注:1元=18円

表4 1人当たり年間食肉消費量

区分/年	2008	2009	2010	2011	2012	前年比(増減率)	
都市部	牛肉	2.22	2.38	2.53	2.77	2.54	-8.3%
	豚肉	19.26	20.50	20.73	20.63	21.23	2.9%
	鶏肉	8.00	10.47	10.21	10.59	10.75	1.5%
農村部	牛肉	0.56	0.56	0.63	0.98	1.02	4.1%
	豚肉	12.65	13.96	14.40	14.42	14.40	-0.1%
	鶏肉	4.36	4.25	4.17	4.54	4.49	-1.1%

資料:中国国家统计局「中国統計年鑑」

注:都市部は購入数量、農村部は消費数量

注:上述の中国の都市部および農村部の1人当たり年間消費量は、一定数の家庭を抽出したアンケート調査により算出されている(全消費量を総人口で除して算出しているものではない)。

2 畜産の動向

(1) 養豚・豚肉産業

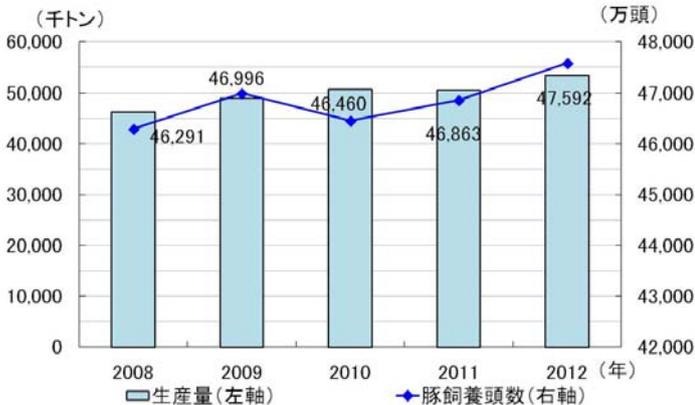
豚肉は、中国の食肉総生産量の約3分の2を占めており、伝統的な食文化を形成する重要な畜産物である。近年、生産規模の拡大や飼養技術の発展などによって生産性が向上している。

FAOのデータによると、2012年の中国の豚肉生産量は世界第1位であり、第2位である米国の5倍弱、全世界の生産量の約5割を占めている。

① 養豚の飼養動向

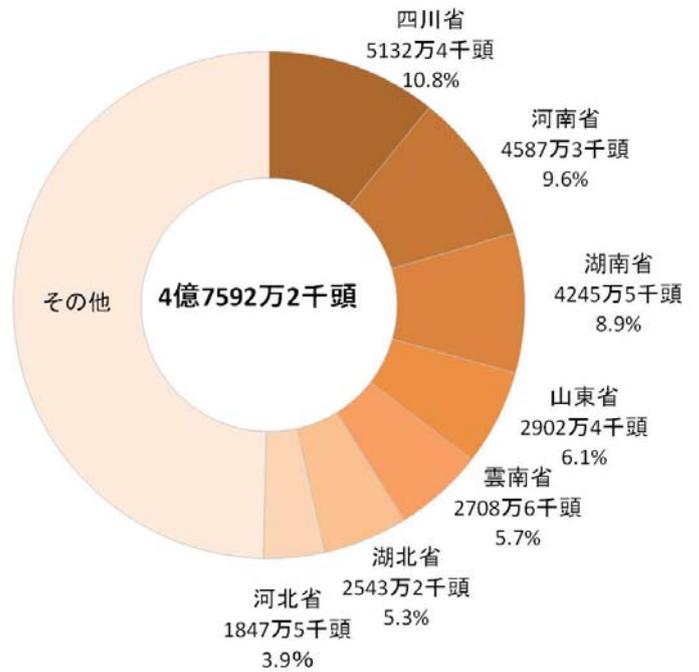
飼養頭数は2007年以降、国内価格が反騰・高水準にあり、農家の増頭意欲が増したことや、政府による繁殖母豚導入およびワクチン接種経費に対する補助などを背景に、増加傾向にあった。しかし、2009年から2010年にかけて、豚肉の供給過剰によって国内価格が低迷したことで、繁殖母豚を淘汰する動きが見られたため減少した。2011年から2012年は、供給が再びタイトとなり、国内価格の高騰などを背景に、肥育豚の導入頭数が増加傾向にあったことから、2012年は、4億7592万頭(前年比1.6%増)となった(図2)。地域別に見ると、華北地域から華西地域、西南地域に位置する上位7省で全体の5割を超えている(図3-1)。また、出荷規模別農場戸数を見ると、年間出荷頭数が49頭以下の農場が全体の95%を占め、中国の養豚経営は、依然、零細農場が主体の構造となっている(表5)。

図2 豚飼養頭数と豚肉生産量の推移



資料: 中国国家统计局「中国統計年鑑」

図3-1 地域別肉豚飼養割合 (2012年)



資料: 中国農業部「中国農業年鑑」

図3-2 地域別肉豚飼養頭数上位7省

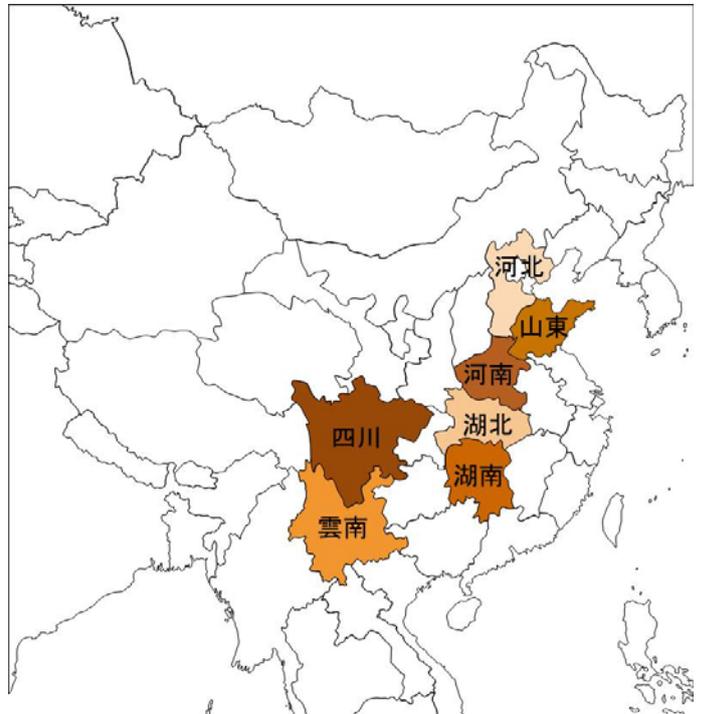


表5 肉豚の出荷規模別農場戸数 (2012年)

区分/規模	全体	1~49頭	50~99頭	100~499頭	500~999頭	1,000~2,999頭	3,000~4,999頭	5,000~9,999頭	10,000頭以上	50,000頭以上
戸数	54,698.4	51,898.9	1,726.1	817.8	167.8	63.5	12.9	6.9	4.4	0.2
割合	100.0%	94.9%	3.2%	1.5%	0.3%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

資料:中国農業部「中国畜牧業年鑑」

② 豚肉の需給動向

豚肉生産は、国民所得の向上や人口増加に伴う需要拡大などを背景に増加傾向にあり、2012年の豚肉生産量は、5342万7000トン(前年比5.6%増)となった(表6)。地域別に見ると、主要養豚地域である四川省のほか、大消費地近郊に位置する河北省など中央部の上位7省で、全体の5割を占めた。

2012年の豚肉消費量は、5392万2000トン(前年比5.5%増)となった。その内訳を見ると、都市部の1人当たり豚肉年間消費量が21.23キログラム(同2.9%増)と増加したのに対し、農村部では14.40キログラム(同0.1%減)となったことから、2012年の消費量の増加は、都市部の増加によるところが大きかったものと推察される(表4)。

2012年の豚肉輸入量は、国内生産量の増加などから73万トン(同3.7%減)と、2011年よりわずかに減少したものの、北京オリンピック開催による消費増加が見受けられた2008年並みの高水準となった。背景としては、加工品向け需要を中心に、安価な輸入豚肉のニーズが高まっていることが考えられる。主な輸入相手先国は、輸入シェアの半分を占める米国のほか、ドイツ、スペイン、デンマークなどとなっている。一方、豚肉輸出量は、23万5000トン(同3.7%減)となった。主な輸出相手先国は、輸出シェアの約8割を占める香港のほか、カザフスタン、マカオであった。

表6 豚肉需給の推移

(単位:千トン)

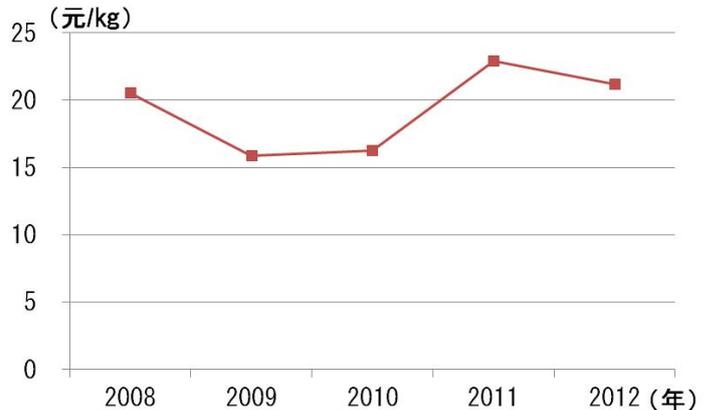
区分/年	2008	2009	2010	2011	2012
生産量	46,205	48,908	50,712	50,604	53,427
輸入量	709	270	415	758	730
輸出量	223	230	278	244	235
消費量	46,691	48,948	50,849	51,118	53,922

資料:中国国家统计局「中国統計年鑑」(生産量)
およびUSDA/FAS「PSD Online」(輸入量、輸出量)

③ 豚肉の価格動向

豚肉卸売価格は、需要増加を背景に上昇基調にあり、2008年には、前年比で2割高となる1キログラム当たり20元(360円)を超えた。こうした高値を受けて出荷頭数が増加したことから、その後は豚肉の供給過剰に陥り、価格は下落した。しかし、2011年は、前半の出荷頭数の低迷や飼料穀物価格上昇による生産コストの増加などを背景に高騰し、同年9月の価格は同26.41元(475円)となった。これを最高値として下落に転じたものの、出荷量が大幅に落ち込まなかったことから2012年に入ってから価格は同20元を超える水準で推移した。この結果、2012年の豚肉卸売価格は、同21.14元(380円)となった(図4)。

図4 豚肉価格の推移



資料:中国農業部「中国農業発展報告」
注:豚後肢肉の価格

(2) 酪農・乳業

中国の牛乳・乳製品は、国民所得の向上に伴う健康志向の高まりや食の多様化などを背景に消費が拡大傾向にあり、乳用牛頭数や乳製品輸入量にもその傾向が現れている。しかし、中国の酪農は、乳用牛の改良や飼料の確保、飼養管理技術の改善など、まだまだ課題は多い。また、乳業も、2008年に起きた生乳のメラミン混入事件にみられるように、品質管理の徹底やコールドチェーンなど流通体制の整備などに課題があるのが実情である。

なお、FAOのデータによると、2012年の中国の生乳生産量(牛のみ)は、米国、インドに次ぐ世界第3位であり、全世界に占める割合は約6.0%となっている。

①乳用牛および生乳の生産動向

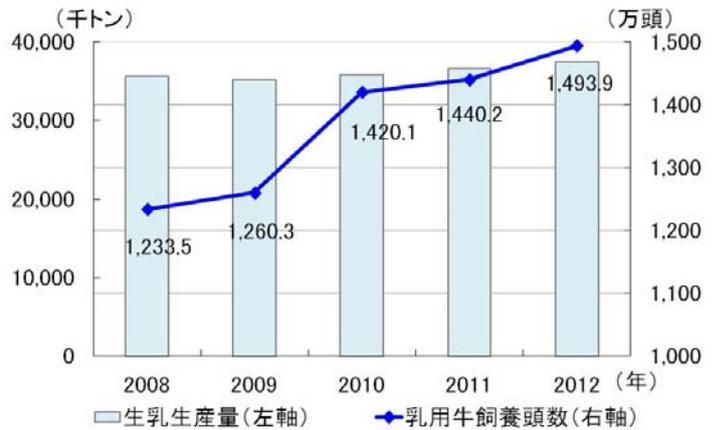
ア 飼養頭数

中国の乳用牛は、おおむね3分の2程度がホルスタイン種およびその交雑種であるといわれている。主要な品種は、雌の黄牛と雄のホルスタインの交雑種に、さらにホルスタインの血統を累進交配して作出された中国黒白花牛(Chinese Black and White)と呼ばれるものである(なお、中国では85年以降、ホルスタイン種の血統が87.5%以上のもの(=ホルスタイン雄牛を三代以上交配したもの)を「中国ホルスタイン」と呼んでいる。)

乳用牛の改良や飼養管理技術などが先進国に比べて遅れていることや、乳肉兼用種も飼養されていることから、乳用牛の生産性は低く、2012年の1頭当たり年間乳量は2506キログラム(中国乳業年鑑)となった。しかしながら、その後も海外から優良な雌牛の導入などが行われ、乳量の増加が図られている。

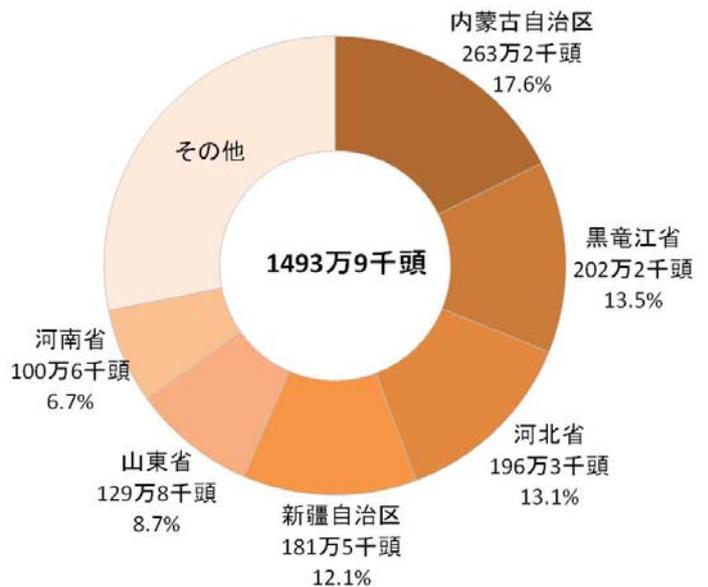
乳用牛の飼養頭数は、2010年にかなり大きく増加し、年々増加傾向にある。2012年は1493万9000頭(前年比3.7%増)となった(図5)。地域別に見ると、華北・東北地方に位置する上位6省・自治区で飼養頭数全体の7割を占めている(図6-1)。また、飼養規模別農場戸数を見ると、飼養頭数9頭以下の農場が全体の9割を占め、中国の酪農経営は、依然、零細農場が主体の構造となっている(表7)。

図5 乳用牛飼養頭数と生乳生産量の推移



資料: 中国国家统计局「中国統計年鑑」

図6-1 地域別乳用牛飼養割合(2012年)



資料: 中国国家统计局「中国統計年鑑」

図6-2 地域別乳牛飼養頭数上位6省



表7 乳用牛の飼養規模別農場戸数 (2012年)

(単位:千戸、%)

区分/規模	全体	1~4頭	5~9頭	10~19頭	20~49頭	50~99頭	100~199頭	200~499頭	500~999頭	1,000頭以上
戸数	2,055.8	1,562.5	286.9	119.4	51.2	22.4	6.0	3.8	2.3	1.3
割合	100.0%	76.0%	14.0%	5.8%	2.5%	1.1%	0.3%	0.2%	0.1%	0.1%

資料:中国国家统计局「中国畜牧業年鑑」

イ 生乳生産量

生乳生産量は、乳用牛の飼養頭数の増加を受けて増加傾向にある。2009年は前年に発生したメラミン混入事件の影響で減少したが、その後は回復し、2012年は3743万6000トン(前年比2.3%増)となった(表8)。

表8 生乳需給の推移

(単位:千トン)

区分/年	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
生産量	27,534	31,934	35,252	35,558	35,188	35,756	36,578	37,436
輸入量	4	4	4	8	13	16	41	94
輸出量	34	37	46	38	20	22	25	27
消費量	27,504	31,901	35,210	35,528	35,181	35,750	36,594	37,503

資料:中国国家统计局「中国統計年鑑」(生産量)
および USDA/FAS「PSD Online」(輸入量、輸出量)

ウ 地域別生乳生産動向

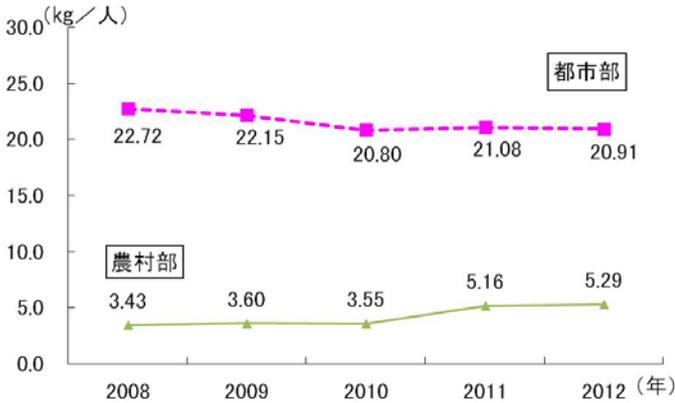
生乳は、主に東北部から華北、西北部などを中心に生産されている。2012年の主産地での生乳生産量は、華北・東北地方に位置する上位5省・自治区で2540万5000トンと、全体の7割弱を占めた。

② 牛乳・乳製品の需給動向

2012年の1人当たり牛乳・乳製品年間消費量は、都市部で20.9キログラム(前年比0.8%減)、農村部で5.3キログラム(同2.5%増)となった(図7)。都市部では、健康志向の高まりや牛乳・乳製品の栄養知識の普及などを受けてヨーグルトの消費が増加している。このため、2008年の

メラミン混入事件以降、減少傾向にあった牛乳・乳製品の消費量が下げ止まったものと考えられる。一方、農村部では、牛乳・乳製品を消費する文化が徐々に浸透し始めてきており、消費量は増加傾向にある。依然として都市部と農村部の消費量には大きな格差があり、今後、農村部での消費拡大が、中国全体の牛乳・乳製品の消費量の増加をけん引していくものと考えられる。

図7 1人当たり牛乳・乳製品の消費量の推移



資料: 中国国家统计局「中国統計年鑑」

注: 都市部の数値は、牛乳・粉乳・ヨーグルトの数値をそれぞれ1:7:1のウェイトで生乳換算した合計値

乳製品のうち全粉乳(還元乳やヨーグルト、アイスクリーム、焼き菓子などの原料として使用される)の需給を見ると、2012年の生産量は、116万トン(前年比5.5%増)、消費量は、154万7000トン(同7.4%増)とそれぞれ増加し、輸入量は40万6000トン(同24.5%増)となった(表9)。

国内の乳業メーカー各社は、メラミン混入事件以後、国産原料を敬遠し、育児用粉乳や高級ヨーグルト製品の製造で輸入原料の使用を増やしてきた。このような消費者の輸入ブランドに対する信頼や高級品志向によって、全粉乳の輸入量は、今後も増加基調での推移が予測される。主な輸入相手国は、FTA締結により関税削減の恩恵を受けたニュージーランドが9割強と圧倒的なシェアを占めている。

表9 全粉乳需給の推移

(単位:千トン)

区分/年	2008	2009	2010	2011	2012
生産量	1,120	977	1,030	1,100	1,160
輸入量	46	177	326	326	406
輸出量	62	10	3	9	9
消費量	984	1,154	1,383	1,441	1,547

資料: USDA/FAS「PSD Online」

脱脂粉乳(主にアイスクリーム、ケーキおよび加工乳などの原料として使用される)は、2004年から2005年にかけて、中国各地で発生した粉乳の安全性をめぐるさまざまな事件(偽ブランド、劣悪な品質の粉乳による事故や栄養障害、成分基準違反など)の影響により、消費は低迷した。その後、乳業メーカーが品質向上などによる信頼回復に努めたことが奏功し、2008年の消費量は増加に転じ、2012年には、22万5000トン(前年比21.0%増)となった(表10)。また、国内生産が安定して推移する中、旺盛な需要に呼応して輸入量は増加し、2012年は16万8000トン(同29.2%増)と、消費の7割強を担う状況となっている。主な輸入相手国は、ニュージーランドが6割、続いて米国が1割となっている。

表10 脱脂粉乳需給の推移

(単位:千トン)

区分/年	2008	2009	2010	2011	2012
生産量	53	54	55	56	57
輸入量	55	70	89	130	168
輸出量	1	0	0	0	0
消費量	107	124	144	186	225

資料: USDA/FAS「PSD Online」

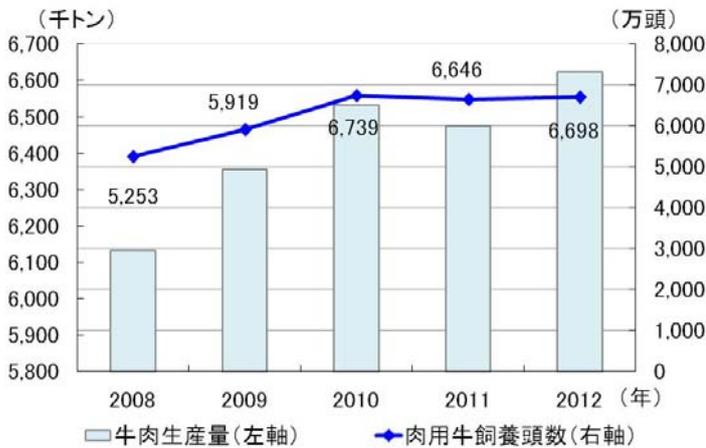
(3) 肉用牛・牛肉産業

中国の牛肉は、従来、廃用した役牛を食用に供するに過ぎなかったが、政府が黄牛種(水牛およびヤクを除く在来種。役肉兼用型)の品種改良を進めることで、肉質改善が進み、1990年代に入り、本格的な牛肉生産への取り組みが始められた。

近年、経済成長に伴う所得向上を背景に、外食産業が発展し、国民が外食などで牛肉を食べる機会が増加している。国民1人当たりの年間牛肉消費量は、都市部で2.54キログラム、農村部で1.02キログラムと、世界的に見るといまだ低い水準にあるものの、今後も中国経済の成長が見込まれることなどから、引き続き増加傾向で推移していくものとみられる(表4)。2011年の肉用牛の飼養頭数は、役用や肉用などとして飼養されていた黄牛など、在来種を中心に減少したが、2012年は前年並みの6698万1000頭となった(図8)。地域別に見ると、西南・華西地方など内陸部に位置する上位7省・自治区で全体の5割弱を占めている(図9-1)。出荷規模別農場戸数を見ると、年間出荷頭数が9頭以下の農場が全体の96%を占めており(表11)、中国の肉用牛経営は、依然、零細農場が主体の構造となっている。

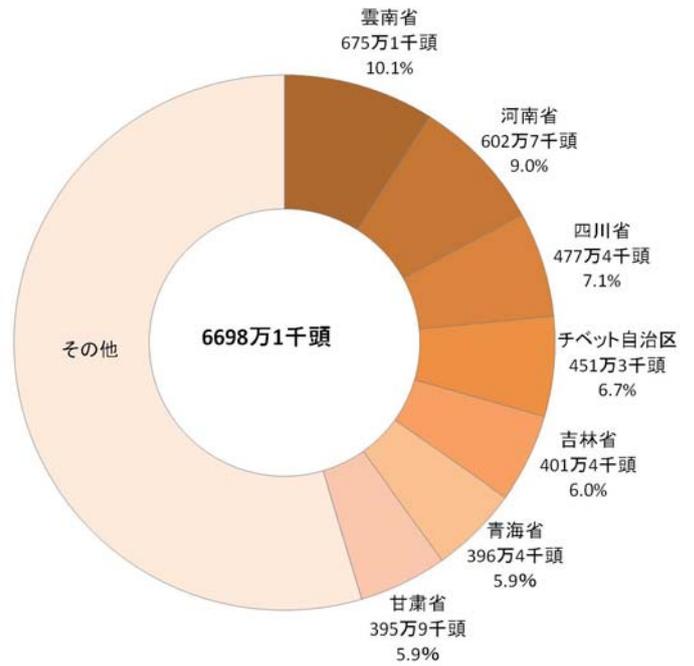
なお、FAOのデータによると、2012年の中国の牛肉生産量は、米国、ブラジルに次ぐ世界第3位(米国の約5割)であり、全世界の生産量の1割弱を占めている。

図8 肉用牛飼養頭数と牛肉生産量の推移



資料: 中国国家统计局「中国統計年鑑」(生産量)
および USDA/FAS「PSD Online」(輸入量、輸出量)

図9-1 地域別肉用牛飼養割合 (2012年)



資料: 中国農業部「中国農業年鑑」

図9-2 地域別肉用牛飼養頭数上位7省

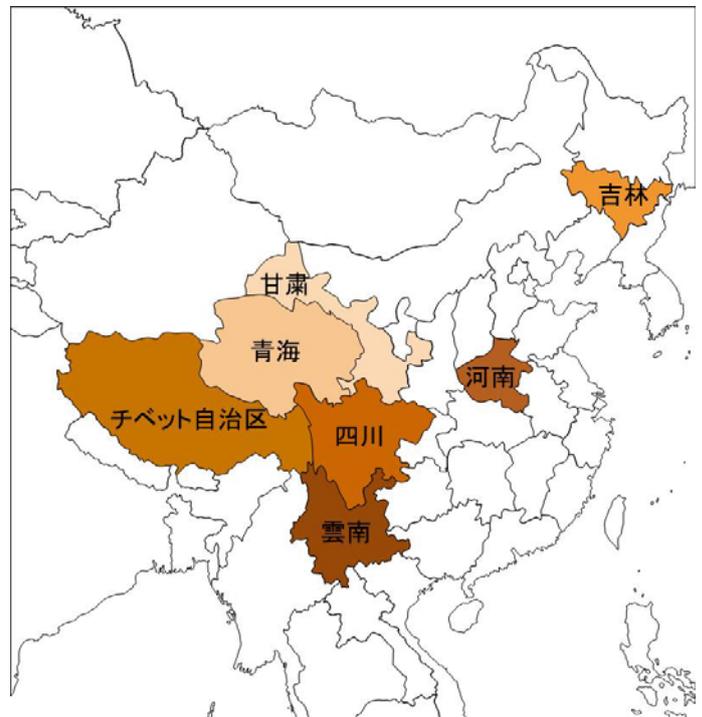


表 11 肉用牛の出荷規模別農場戸数 (2012年)

(単位:千戸、%)

区分/規模	全体	1~9頭	10~49頭	50~99頭	100~499頭	500~999頭	1,000頭以上
戸数	12,653.1	12,102.6	435.6	84.3	26.1	3.5	1.0
割合	100.0%	95.6%	3.4%	0.7%	0.2%	0.0%	0.0%

資料:中国農業部「中国畜牧業年鑑」

牛肉消費量は年々増加傾向にあり、2012年は668万トン(前年比 3.6%増)となった。また、消費需要を反映して牛肉輸入量も増加しており、2012年は同 3 倍強の 9 万 9000 トンとなった(表 12)。主な輸入相手国は、豪州が 4 割、続いてウルグアイが 2 割となった。

牛肉卸売価格は、近年の国民所得向上に伴う需要の増加から上昇基調にあり、2012年は、39.31 元(707 円)となった(図 10)。

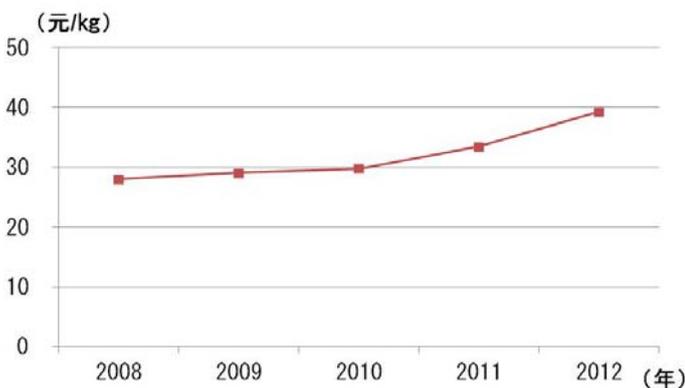
表 12 牛肉需給の推移

(単位:千トン)

区分/年	2008	2009	2010	2011	2012
生産量	6,132	6,355	6,531	6,475	6,623
輸入量	6	23	40	29	99
輸出量	58	38	51	55	42
消費量	6,080	6,340	6,520	6,449	6,680

資料:中国農業部「中国農業年鑑」(生産量)
および USDA/FAS「PSD Online」(輸入量、輸出量)

図 10 牛肉価格の推移



資料:中国農業部「中国農業発展報告」

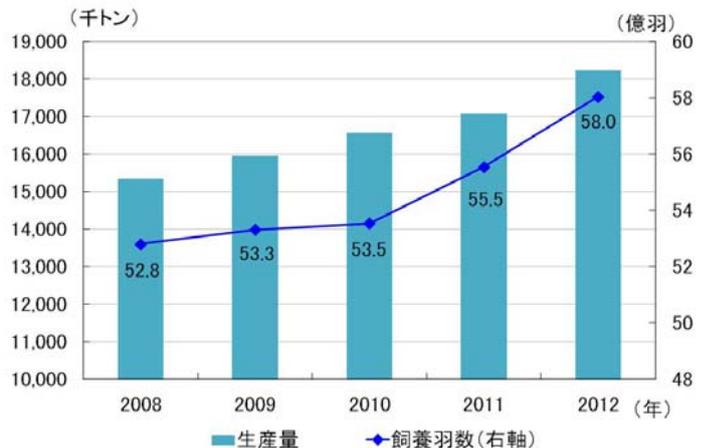
(4) 養鶏・鶏肉産業

中国の養鶏は、1970年代末の農政改革を契機として大きく発展し、食肉の中では豚肉に次いで消費されている。最近では、中国人の嗜好に合う在来鶏(黄色種。いわゆる地鶏)やその特色を活かした在来鶏と輸入鶏との交配による品種改良鶏が生産の主流となり、消費者のニーズに合わせた生産が進められている。このため、今後、さらなる生産・消費の増加が見込まれる。

家禽の飼養羽数は、安価なたんぱく源としての根強い需要を背景に、2010年以降急速に増加しており、2012年は58億400万羽(前年比4.5%増)となった(図11)。地域別に見ると、河南省や山東省、河北省など沿岸部に位置する上位7省・自治区で全体の5割強を占めている(図12-1)。出荷規模別農場戸数を見ると、年間出荷羽数が1万羽未満の農場が全体の99%以上であり(表13)、中国の養鶏経営は、依然、零細農場が主体の構造となっている。

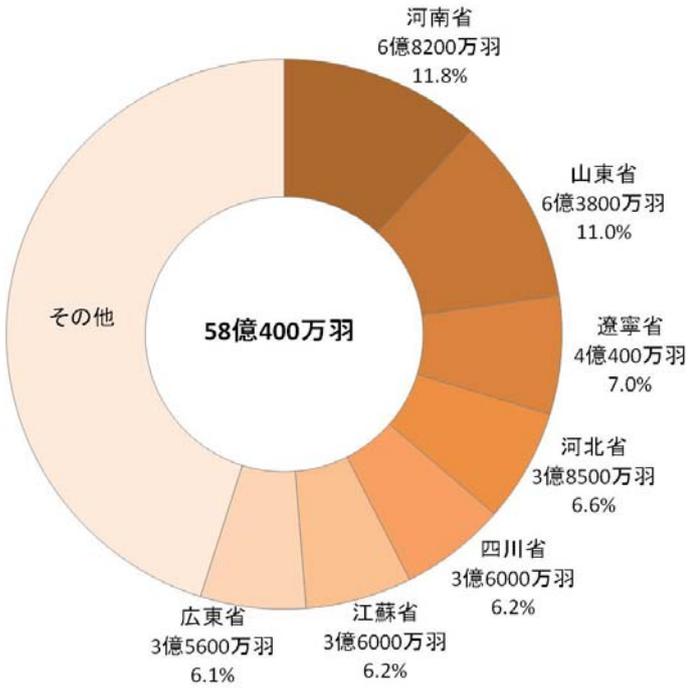
なお、FAOのデータによると、2012年の中国の鶏肉生産量は、米国に次いで世界第2位(米国の生産量の約9割)であり、全世界の生産量の2割弱を占めている。

図 11 家禽飼養羽数と家禽肉生産量の推移



資料:中国国家统计局「中国統計年鑑」

図12-1 地域別家禽飼養割合（2012年）



資料:中国農業部「中国農業年鑑」

図12-2 地域別家禽飼養羽数上位7省

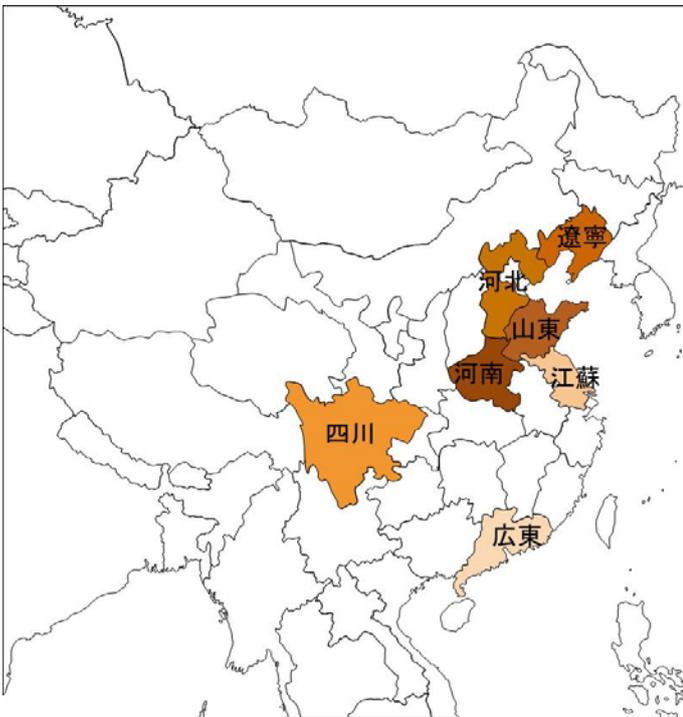


表13 家禽(肉用鶏)の出荷規模別農場戸数（2012年）

(単位:千戸、%)

区分/規模	10,000~ 49,999羽	5万~ 99,999羽	10万~ 499,999羽	50万~ 999,999羽	100万羽 以上
戸数	152.9	19.7	6.4	0.9	0.4
割合	0.6%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%

資料:中国農業部「中国畜牧業年鑑」

鶏肉輸出は、鳥インフルエンザ、ニューカッスル病など家畜感染症の常在化や抗生物質の残留問題など、家畜衛生や飼養管理の問題に直面している。2002年には、動物用医薬品の残留を理由として、EU向けの非加熱鶏肉の輸出が一時停止となり、2004年には、高病原性鳥インフルエンザの発生を理由として、日本も輸入の一時停止措置を講じ、現在に至っている。その後、中国の鶏肉輸出は、鶏肉調製品が中心になり、2008年以降、増加傾向で推移しているが、2012年は、41万1000トン(前年比2.8%減)となった(表14)。主な輸出相手国は日本、香港などとなっている。

鶏肉卸売価格は、より安価なたんぱく源を求める消費層による需要増加によって上昇基調にあるが、2012年は、国内生産の増加などにより14.14元(254円)と前年を下回った(図13)。

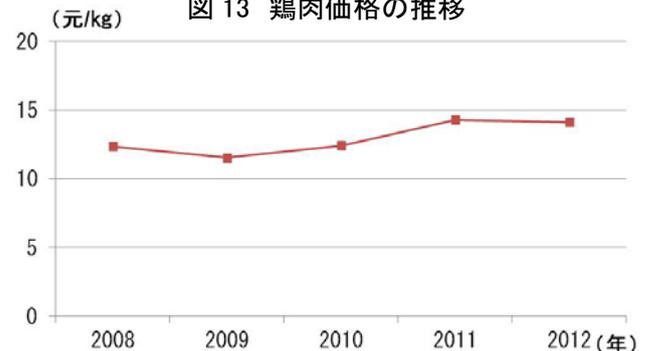
表14 鶏肉需給の推移

(単位:千トン)

区分/年	2008	2009	2010	2011	2012
生産量	15,336	15,949	16,561	17,088	18,226
輸入量	399	401	286	238	254
輸出量	285	291	379	423	411
消費量	15,450	16,059	16,468	16,903	18,069

資料:中国農業部「中国農業年鑑」(生産量)
およびUSDA/FAS「PSD Online」(輸入量、輸出量)
注:輸入量および輸出量には、鶏肉調製品を含む。

図13 鶏肉価格の推移



資料:中国農業部「中国農業発展報告」